

【学生レポート3】

フィールドスタディーでの学びを踏まえて

長崎大学多文化社会学部3年 藤崎のぞみ

2019年10月2日、我々はチャイルドホープを訪問し、職員による団体紹介のプレゼンテーションを受けた後、同団体の支援を受けているストリートチルドレンと交流をした。その後、実際にストリートで生活する人々が集まる場所へと足を運んだ。そこで感じたことを中心に、フィリピンの最貧困層の現状を記述するとともに、チャイルドホープが行う支援活動の意義について再考察する。

ストリートで生活する人々が集まる場所は、一見するとにぎやかな市場のようにしか見えなかった。しかし屋台の裏に回ってみると、建物との隙間にいくつものダンボールが敷かれ、その上で幼い子供たちが遊んでいた。大きな建物が並んだ大通りの裏では、路上生活を強いられている人々が、商売によって必死に生計を立てながら暮らしている。フィリピンの経済格差の様子がまざまざと分かる状況を目の当たりにして、そのギャップに改めて衝撃を受けた。その日は雨が降っていたが、彼らは、わずかに出ていた建物の屋根の下を確保してダンボールを敷いていたため、濡れずに済んでいるようだった。晴れた日には気づかなかったかもしれない。路上で生活するということは、天候の影響を直に受けるため、少しでも暑さや寒さ、雨風をしのげる場所を確保しなければならないのである。

親が屋台で働いている傍ら、ダンボールの上で過ごす子どもたちを見て驚いた出来事がある。一人の子どもがスマートフォンを使ってゲームをしていたのだ。路上での生活を強いられるほど、ひどい貧困に陥っている家族に、スマートフォンを購入する余裕があるのだろうか。その時は想像もしていなかった状況に首をかしげていたが、貧困層だからこそそのような状況になり得るのかもしれないと考えた。商売によって、必要最低限の食費をまかなえる以上に収入が得られたとしたら、彼らは何にお金を使うだろうか。私個人の意見としては、必要最低限の生活をするための「衣食住」を揃える必要があると考えるため、食べ物次は衣服、そしてストリートで生活する人とそうでない人々の最も異なる点である「家」の確保である。ストリートで生活する人は、最終的に家を確保できるようお金をためるものだと無意識に考えてしまっていた。しかし、家を買ったり借りたりするためには、持続的に安定した収入を得なければならない。物売りや物乞いでは収入が安定しない

うえ、家を借りるのには相当なお金が必要である。そのため、彼らは家を確保することよりも、他の日用品を充実させることを優先しているのではないだろうか。もしそうであるとするなら、彼らが考える幸せと、私たち日本人のように恵まれた環境で暮らす人が考える幸せには違いがあるように感じた。大半の日本人にとっては「家（アパートやマンションなども含める）」があること、そしてそこで生活することが当たり前である。そして安心かつ安全な暮らしを確定するために家を手に入れることを最優先しがちであると思う。しかし、ストリートで生活する人々は、家を確保するのは異なる側面から幸せを追求しようとしている。

ストリートで生活する人々のような最貧困層について言われることは、「貧困の負の連鎖」である。ストリートで暮らす人々は、路上での物売りや物乞いの手段でしか収入を得る方法を知らないため、その子どもたちも他の経済活動を学ぶことなく、同じような方法でしかお金を稼ぐことができない。収入が少ないため学校に通うこともできず、結局親と同じ道をたどって貧困生活に陥ってしまう。最貧困層に位置する人々が貧困から抜け出せるようにするためには、どのような取り組みが必要なのだろうか。フィリピン政府は2022年に貧困率を14%まで下げる目標を掲げている。しかし、貧困層は政府に期待していないという実態が見受けられる。なぜフィリピン政府は貧困問題をなかなか解決することができないのか。その理由として、政治家が短期間では成果が出ない貧困撲滅に取り組むよりも、自分の成果が出やすい活動を行って票を集めようとする事、そして裕福層にメリットがある活動を行えばお金も票も集まりやすいことが挙げられる。そのため、国に代わって様々なNGOや支援団体が重要な役割を果たしている。

フィリピンの現状としては、国内外のボランティア団体の援助が不可欠となっている。そのような中で、どのような活動が重要になってくるのだろうか。物乞いをする子どもたちにお金をあげたりと、直接彼らの収入に繋がるような手助けをすることは簡単であるが、それは一時的な支援にしか過ぎない。彼らが本当に貧困から抜け出すためには、物乞いのように人に頼る方法ではなく、自分の力で稼げるようになる必要がある。そのように彼らの「自立」を促す支援が大切である。自立した経済活動を行えるようにするためには、子どもたちへの教育が不可欠であろう。そのような面から考察すると、チャイルドホープはとても意義ある支援活動を行っているように思う。知識不足によって狭い社会でしか経済活動ができず、貧困が繰り返されてしまう状況を断ち切るには、教育を通して自立支援を行うことが有効であると考えられる。